



町制施行50周年

記念
特別号

発行／昭和60年4月 編集／門川町役場



町制施行50周年記念式典（昭 60.2.11）

門川町50年のあゆみ

昭和10年2月町制施行

人口11,684人	37年3月 国道10号線開通	村会より表彰を受ける
面積119.42平方%	39年1月 日向一延岡新産業都市計画地域の指定を受ける	49年2月 日豊海岸国定公園の指定を受ける
初代町長に小野龍吉氏きまる	39年4月 県立農業高等学校が開校	50年2月 町の木、花木、花を制定
22年5月 学制改革による門川中学校開校(6・3制)	41年1月 農村集団電話開通	53年2月 松瀬大橋完成
24年6月 天皇陛下行幸	41年10月 町立中央公民館建設	本山林野火災(3日間 125ha)
25年3月 小園井堰竣工	41年12月 乙島、牧山一帯県定公園に指定	53年12月 門川町清掃工場建設(運転開始54.4.1より)
27年10月 門川漁港建設開始	43年11月 役場新庁舎建設	55年12月 海浜総合公園事業開始
29年4月 町議会解散	町旗制定	56年3月 門川町衛生センター建設(旧施設撤去)
29年10月 九州木産社大火	44年1月 上水道事業発足	57年4月 生活環境保全条例施行
30年2月 町章制定	46年5月 県立特別養護老人ホーム・五十鈴荘開園	58年11月 第1回産業まつり開催
30年4月 簡易水道供用開始	47年10月 門川防災ダム建設	59年1月 名誉町民誕生(第1号金丸次藏氏)
32年4月 老人ホーム・松寿園開園(定員50名)	47年12月 町民憲章制定	59年4月 五十鈴小学校開校
33年5月 済生会日向病院開院	48年2月 優良町村として全国町	59年10月 町営墓地西又霊園竣工
35年3月 草川小学校現地に移転		

町政功労者表彰

受賞者のご芳名

50周年を記念して、各分野において永年に亘り多大な功績を残されました次の方々が、表彰されましたのでご報告いたします。

【自治】

満8年以上、常勤の特別職（町三役並びに教育長）をされた方、又されている方。

前町長（名誉町民）	金丸次蔵	上町
現収入役	藤崎明	南町一区

満12年以上議員の職をされた方、又されている方。

現議員	黒木義純	上井野
現議員	奈須日出夫	中尾
現議員	浜口惇	下納屋
現議員	米良守弘	中山
元議員	河野留喜	上納屋一区
前議員	黒木宗一	南町一区
前議員	染田角治	加草三区
元議員	松澤春蔵	上町
元議員	山田末義	上納屋三区

満15年以上各種の役職をされた方、又されている方。

前選挙管理委員	水永秋満	本町
現選挙管理委員	黒木良則	上井野
現消防団副団長	西村勲	上町
現固定資産評価委員	寺原孝一	三ヶ瀬
元農業委員	中田清	中村
元農業委員	安田清蔵	庵川西
現民生委員	小林嘉八	上納屋一区
現教育委員	安田義治	上町
現交通指導委員	林田正義	東栄町
現交通指導委員	長田繁慶	城屋敷

満30年以上町行政に従事された方、又されている方。

元総務課長	松井初義	西栄町
元総務課長	金丸章	加草二区
前清掃工場長	日高雄一郎	旭町
現総務課長	牧野義博	加草四区
現農林課長	金田茂遠	城屋敷
現教育総務課長	奈須清敏	上納屋三区
現社会教育課長	米良育夫	東栄町



【教育・文化】

多年にわたり学校医として、児童生徒の健康管理体力増進に貢献された方、又されている方。

現校医	白石孝之	本町
現校医	堤俊和	東栄町

多年にわたり、社会教育の振興に貢献された方、又されている方。

元婦人連絡協議会長	安田スミ	庵川西
-----------	------	-----

【産業・経済】

多年にわたり、漁業の振興発展に貢献された方、又されている方。

漁業経営	山口近治	尾末東
漁業経営	和田功	庵川西
漁業経営	岩田實	庵川東

多年にわたり商工業の振興発展に貢献された方、又されている方。

前商工会副会長	黒木甚六	上町
---------	------	----

多年にわたり農林業の振興発展に貢献された方、またされている方。

果樹経営	園田實	牧山
林業経営	松本幸吉	三ヶ瀬
農業経営	米良千蔵	城屋敷

多年にわたり、雇用促進並びに産業発展に貢献されている企業。

株式会社	チムニット	平城西
------	-------	-----

【その他】

多年にわたり、交通安全運動の高揚に貢献されている企業。

株式会社	九州木産社	東栄町
------	-------	-----

と連帯」を基調とする一大町民運動を提起したところであります。又、これからの経済社会は、先端技術産業及び高度情報化社会の到来による画期的な大変革が行われると共に他面、一村一品運動に見られるように地域が根づいた特性ある地場産業の確立の時代を迎えております。

又、経済的な豊かさから、人間の心、精神的な豊かさが強く求められております。一方行政においても、効率的行政経営を基調として、行政改革の推進が国・地方を問わず強く要請されているところであり、益々厳しい社会経済が予想されますが、門川町勢の発展はこれからであります。行政と住民が一体となり、限らない町勢の進展に邁進していくことをお誓い申し上げ私のあいさついたします。

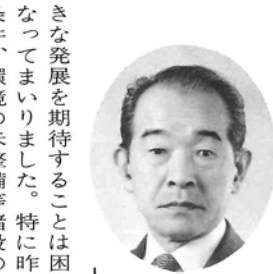
はじめに

去る二月十一日、門川町中央公民館において、松形知事をはじめ多くのご来賓の出席を得て、町民各位と共に門川町制施行五十周年記念式典を挙行できましたことを心からお礼申し上げます。

さて、本町が町制を施行したのは昭和十年二月十一日で、当時世帯数二、二八九、人口一、六八四人でありました。爾来半世紀、先輩諸氏の英知とたゆまざる努力によって今日の門川を築き上げられたのであります。ここに改めて感謝の意を表したいと存じます。

町の現況

町政の現状は極めて厳しいものがありますが、私はこの五十周年を一つの節目として記念すべき昭和六十年こそ来るべき二十一世紀を目指す町勢発展を指向するところに大きな意義があり、豊かで活力のある住みよい郷土をつくるために更に一層の行政努力と併せて町民の皆様に一層のご支援と協力をお願い申し上げたいと存じます。



町制施行 五十周年を迎えて

門川町長
金丸親治

きな発展を期待することは困難となつてまいりました。特に昨今、条件、環境の未整備等諸般の事情から県北地域の開発発展の遅れが憂慮されています。

県北発展の中心となる 門川町をめざして

しかしながら県北地域の発展なくして宮崎県の真の発展はあり得ません。時代は大きく変わりつつ

してベクトルタウンとしての位置づけを選択し、日向延岡両市との同一経済圏として雇用の確保を図ると共に国・県及び町の財政投資により公共事業を積極的に進めてきたところであります。

あります。県北地域開発発展の根幹をなす高規格道路、広域農道、空港、高度情報化社会等諸対策がようやく始動しはじめました。ご承知の通り県北地域は、東九州の中央部にあり、拠点都市延岡市を中心に九州全域を一五〇キロメートルに包含する地理的条件を有し、首都圏と最短距離で直結する細島港も整備されています。県北地域はこのような地理的条件などを十分に活用し、東九州地域を縦貫する高規格道路や国道二

要として将来大きく発展が期待される門川町は、改めて二十一世紀を目指す町の将来を展望し、自ら伸びる新しい町勢発展の方向を樹立し、推進していかなければならないと存じます。

今後の町政

これからの町政は、このような政策推進の基本方向をふまえ、具体的には当面する対策と中・長期展望にわたる対策の両面から諸施策を推進することが必要であります。

当面する対策としては、これまで推進してまいりました。

① 農業・漁業及び商工業振興対策
② 道路都市計画、環境整備等の対策
③ 教育健康福祉等の対策
④ 企業誘致等の諸施策
⑤ 企業誘致等の実行してまいらなければなりません。中・長期的展望にわたる対策については、① 創意と努力による企業立地の強力な推進と県北ミニテクノポリス対応
② 遠見半島一帯の産・学・住の新都市開発と大型観光開発
③ 国道十号線、門川・北郷線の整備促進と東九州縦貫自動車道の早期実現、その他交通対策
④ 広域農道、広域基幹林道、大型魚礁の整備促進
⑤ 文化、スポーツ施設の整備促進
⑥ 五十鈴川、門川湾等生活環境対策
⑦ 細島港の整備強化と県北地域空港等の対策

⑧ 高度情報化時代への対応
⑨ 国・県等の施策にかかる大型プロジェクトの誘致による大規模開発等の課題に取り組んでまいらねばなりません。

これら政策を推進するにあたって最も重要なことは、町民のご理解とご協力です。町政は誰のものでもありません。門川町民一九、〇〇〇人みんなのものであります。住民が町政の主人公であり、町民のための町政が地方自治の基本であります。

町民が町政の主役であり、町政の主権者であるならば、町民は町政に対し自覚と責任をもたなければならぬことは当然であります。町政の主人公である町民が地域の問題を自らの問題としてとらえ、それを行政と共に考え進めていく体制づくりが必要ではないでしょうか。近時住民の自律性がなくなり、何でも行政に甘える、依存するといった考えが強く、又一部には、個人の権利、利益のみを主張する自己中心の風潮が見られることは残念でなりません。

これからの厳しい時代に発展していくためには、門川町は更に一層の行政努力と町民の自覚とが車の両輪となってお互いに力を合わせ一体となっていくことが必要であり、町民の自覚と責任、自助努力の高揚が最も大事なことであると存じ、町制五十周年を契機として、新世紀に向かっての活力ある住みよい町づくりのための「意欲

記念行事・事業の紹介

本年は、意義深い町制50周年の記念すべき年で、あり、町では、町民の皆様とともに、この50年をふり振り返りからの門川町を考えるため次のような事業・行事を既に実施したり今後実施するほか、例年開催している行事の中で町制50周年にふさわしいものを計画しました。

記念行事

- 記念作文論文募集
期日 59年9月～59年11月
- 健康マラソン大会
期日 60年2月10日
- 記念式典
期日 60年2月11日
- 町政体験「一日町長」
期日 60年5月
- NHKテレビ番組公開「のど自慢」
期日 60年6月9日
会場 五十鈴小体育館
- 町民体育大会
期日 60年10月10日
会場 門川中学校
- 文化講演会
期日 60年11月10日
会場 中央公民館
講師 三遊亭 圓楽
- 産業まつり
期日 60年11月2日～11月3日
- 総合文化祭
期日 60年11月22日～11月23日
- タイムカプセル埋設
期日 60年12月
- ふるさとを語る会
期日・会場 未定
- 花火大会
期日・会場 未定



50周年記念行事「健康マラソン大会」

お知らせ

NHK放送局主催の 各種行事紹介

NHK放送局が、本町において開催する「のど自慢」の公開番組の実施に伴って、左記の行事を計画しておりますのでお知らせ致します。

- 一、期日 60年6月2日～6月9日
- 一、会場 中央公民館他

行事

- ◆健康教室
- ◆ビデオ教室
- ◆話し方教室
- ◆NHK放送50年のあゆみ展示会
- ◆テレビ中継車見学会
- ◆民主団体との懇談会
- ◆視聴者との懇談会

期日 [60年6月2日] 場所 中央公民館 他
[60年6月9日]

町制50周年記念事業

町民運動の提起

『意欲』と『連帯』

を基調に：

門川町は、美しい自然に恵まれた郷土と伝統ある文化、人情味あふれる町民性を永遠の誇りとして将来共にこの貴重な資産を生かし、自然と調和のとれた美しい魅力ある町づくりを推進していかねばなりません。

町政の現状はきわめてきびしいものがあります。これからのきびしい時代を切り拓き将来大きく発展していかなければならない門川町は更に一層の行政努力と併せて町政に対する町民の自覚が必要であります。特に町民は、町政は誰れのものでなく町民一人ひとりのものであるとの理念のもとにお互いが住んでいる地域社会での問題は、住民自からの努力と地域が共同して解決しようとする町民の自覚と責任を高める意識を喚起することが最も大事なことでないかと思えます。

このような考え方に立って町制50周年を契機として、二十一世紀に向けて豊かで住みよい生きがいのある町づくりのための『意欲』と『連帯』を基調とする町民運動を提起いたします。

門川町制施行50周年記念 植樹祭 盛大に開催される



約120名の人々によって植樹が行われた

町制施行五十周年事業の一環として計画した植樹祭も三月の長雨で式典が予定通り挙行出来ないのではないかと心配されたが、二十八日より晴天に恵まれ、町有林（官行造林伐採跡地）字オシカ谷に於いて、広く町内の育林意識の高揚と積極的な緑化の推進をはかる意味において、東臼杵振興局、延岡営林署、県林業公社（県北事務所）、門川町議会、地区会長、消防団幹部、森林組合、その他含め九団体、総出席者一二〇名で記念植樹が盛大に開催された。

植栽現場は中村地区より約九キロ西方の奥地で大字川内津々良の「お滝さん」が六〇〇メートル下流に位置する標高五〇～三九〇メートルの地点に町役場を午前八時半に出発、現地においては町長の挨拶に始まり、振興局長、門川町議会議長に来賓祝辞をいただき、営林署日向駐在の職員から植樹上の注意の説明を受け、代表者六名植樹記念の後、一般植樹で一ヘクタールにヒノ木、二五〇〇本を記念植栽した。閉会式は本山山頂の門川町が一望できる憩いの広場に移動し、森林組合長の万歳で式典を終了した。



町制50周年記念事業

町民会館建設構想

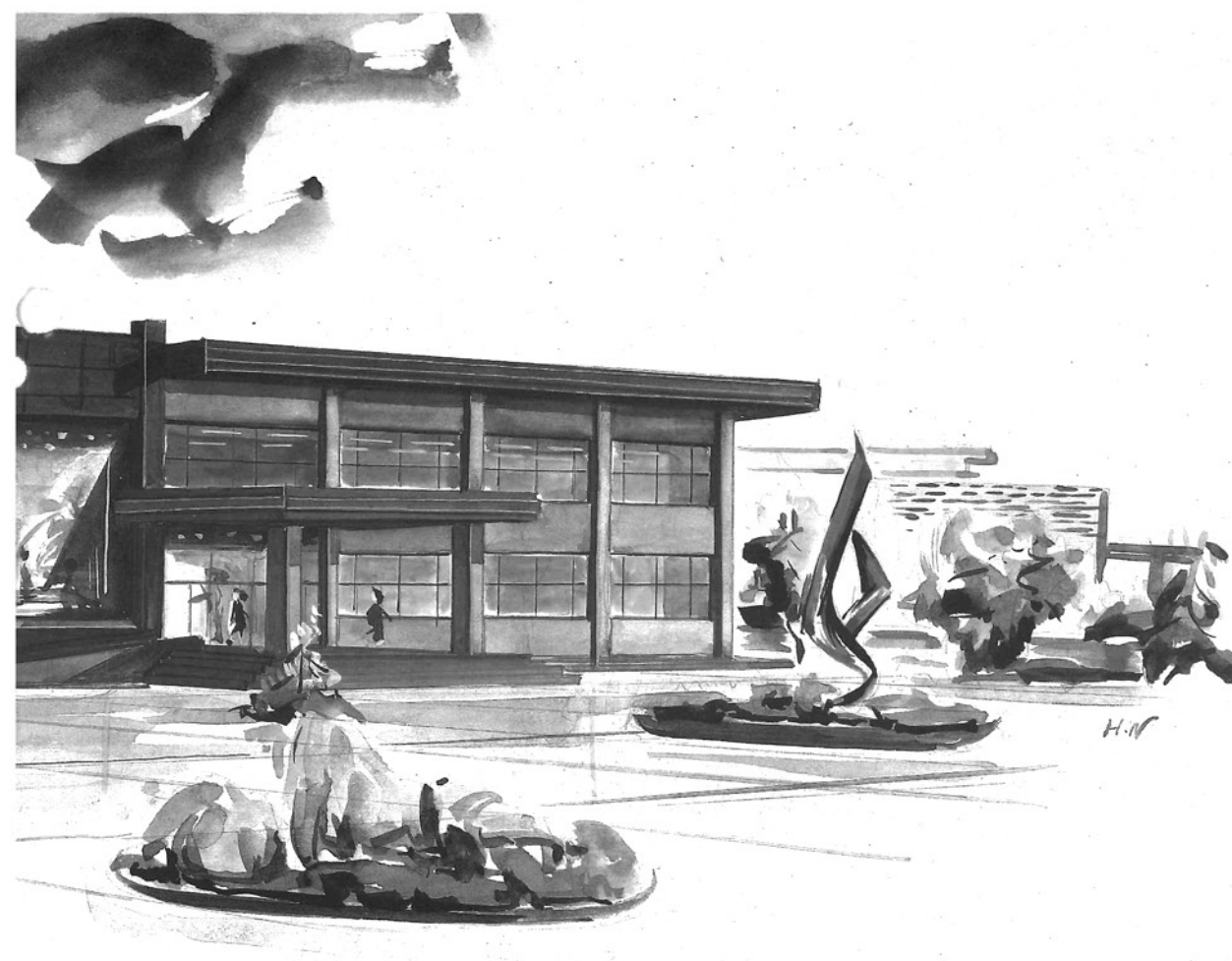
―町民の幅広い教育
文化活動の場をめざして―

意義

今や変ぼうする社会にあつて、生涯教育、学習社会ということばに象徴されるように、人々の学習への関心はとみに高まり、多種多様化の傾向にあります。

一方、今日の社会状況をみますと、物質的には豊かさがみられる反面、心と心のふれあいがいずれ、住民の連帯感の稀薄化地域や家庭の機能の低下等によって、うるおいのない社会になりつつあることが憂慮されております。

本施設は、このような状況をふまえ、心豊かな地域社会および町づくりの形成を推進するため、町民の幅広い教育・文化活動の拠点として、21世紀へ向けてますますの町勢発展を願ひ町制50周年を記念して建設するものです。



町制50周年記念事業

町民体育館建設構想

—町民の健康づくりの
場をめざして—

意義

健康で強い体力は、あらゆる人間生活の基礎となるものであり町民が文化的で明るい豊かな生活を営むためには、体育スポーツの振興にまつところがきわめて大きいものがあります。

本町のスポーツ人口も年々増加し、施設不足をきたしている現状であります。本施設は、このような状況をふまえ、健康増進と連帯感あふれる心豊かな地域社会および町づくりの形成を推進するため「町民総スポーツ」をめざし、体育・スポーツ振興の拠点として、町制50周年を記念し、建設するものです。



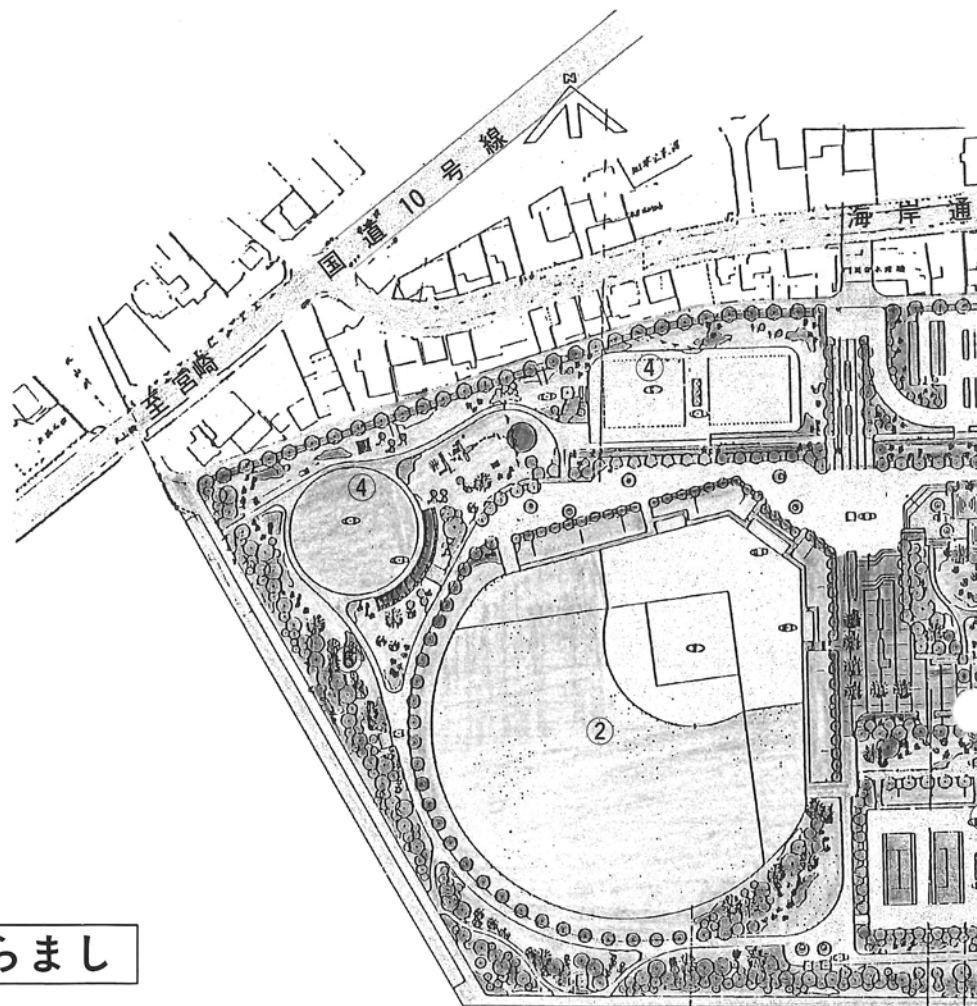
町制50周年記念事業

海浜総合公園建設構想

—町民のスポーツ・レクリエーション及び憩いの場をめざして—

意 義

今日の高度化、多様化する社会諸情勢の中にあつて、人々の心の安らぎ
 おり、住民からもスポーツやレクリエーション施設等の整備促進が強く望
 このような実態をふまえ、総ての町民がいつでも気軽に利用でき、スポ
 への町勢発展を願い、町制50周年を記念し建設するものです。



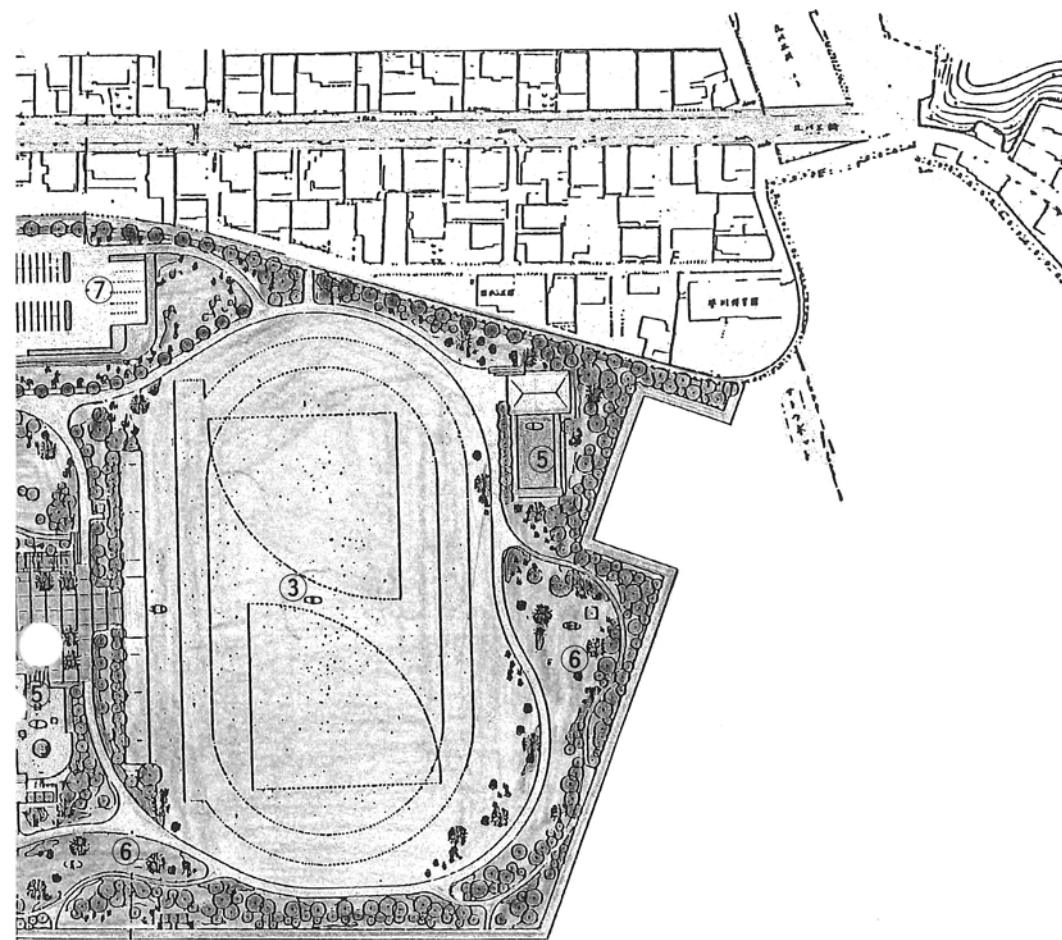
構想のあらまし

1. 建設地 門川町大字加草海浜地先（公有水面埋立地）

2. 建設規模及び内容 用地面積 約103,000㎡・内容 ①ふれあい広場／四季の
 ントゾーン ③多目的広場／ソフトボール・サッカー・ラグビー他各種競技場
 ⑤特別施設／テニスコート・プール・弓道場 ⑥町民の森／公園外周地の植栽

と健康の保持増進は極めて重要となっておりますが、本町にはこれらの施設が不足して
 まれているところであります。

ーツやレクリエーション等を通して心身ともに健康で豊かな人間形成をめざし、21世紀



森と安らぎゾーン・遊び広場と散策ゾーン ②運動広場／野球その他の球技と各種イベ
 とお祭りゾーン ④すこやか広場／ゲートボール・児童遊具・芝生のたわむれゾーン
 とジョギングコース及び回遊散策ゾーン ⑦駐車場

門川町民歌



門川町民歌

一、黒潮ひかる この町は
 乙島浮かぶ 空高く
 海山幸に めぐまれて
 希望を胸に 手をむすぶ
 みんな輪となり 灯をかかげ
 ああ幸多き わがふるさとよ
 門川町

二、木犀におう この町は
 母なる川の 五十鈴川
 懐古の歴史 偲びつつ
 明日の文化 芽は萌える
 みんな輪となり 灯をかかげ
 ああ美しき わがふるさとよ
 門川町

三、日ごとに新 この町は
 沃野をのぞむ 遠見山
 生産の鐘 なりわたり
 郷土をひらく 息吹きあり
 みんな輪となり 灯をかかげ
 ああ伸びてゆく わがふるさとよ
 門川町



かどがわ音頭

かどがわ音頭

一、浮かぶ乙島 鯛の町に
 沖は大漁で 祝い歌

※ ヤッチャヨルヤッチャヨルヤッチャヨルガ
 ソレソレソレ 今からバイ
 ドントドントデ ミチヨラッシャイ

二、空は青空 稲刈り日和
 今日も元気で 夫婦づれ
 ※印くり返し

三、夢はみのるよ 杉苗かるこ
 汗は明日の 風をよぶ
 ※印くり返し

四、その名涼しい 五十鈴の川に
 すくう白魚 細い指
 ※印くり返し

五、遠見山から わが町みれば
 黄金色した 陽がのぼる
 ※印くり返し

